



早川 かい はやかわ かい

生まれた場所：山梨県

生まれた年：1884年

なくなった年：1969年

※早川かい・和崎ハル・田畑染の3人は、ともに協力し、同じ運動に力をつくしました。ぜひ3人の学習シートをいっしょに読んで下さい。

あきた ふじんうんどう はは 秋田の婦人運動の母

早川かいは、今から120年以上前の1884年に山梨県で生まれました。夫が目の医師で、秋田市に病院を開き、秋田市にやってきました。

かいは、秋田市の榎山教会でキリスト教を信仰していました。そして38歳のとき、榎山教会やほかの教会にいる40人の女性で「キリスト教婦人矯風会秋田支部」を作り、支部長となりました。

その当時、女性は男性にくらべて、身分がとても低く考えられていました。また、生まれた家がまずしいと、その家の女の子は、ほかの家やお店に売られてしまい、自分自身で生き方を決めることなどできないこともあったのです。

かいは、そのような世の中をかえていかなくにはいけないと考えていました。それでこの会は、女性の地位が高くなることと、いろいろな理由でつらい生活をしている女性を助けることを目的にしていました。このような運動を「婦人運動」と言います。

かいが39歳のとき、東京で大きな地震がありました。関東大震災と言います。

かいは、秋田県内9つの婦人団体と協力して、東京にわらぶとんを1080枚送りました。「女なんかに何ができる」と思う人が多かった時代に、女性が力をあわせて世の中の役に立つことをするのは、当時としては大きなできごとでした。

かいが44歳のとき、秋田市のある地区で火事がおきました。その地区は、お酒を飲む店がたくさんあったのですが、そこではたらいっている女性のほとんどは、まずしい家から売られてきた人ばかりでした。

かいは、火事で困っている女性たちを助けるとともに、まずしいからといって女性がお金で売られるようなことをなくそうという運動を始めました。

この運動は全国でも大きくもりあがり、ついに県議会がそのようなことをみとめないということを決めました。これは、全国でも4番目に早いものであったそうです。

かいはこの運動を通じて、女性も政治に参加しなくてはいけないと考えました。それまで、女性は議会の議員になることはできなかったのです。そこでかいは、ともに婦人運動をしていた和崎ハルや田畑染らと「婦人選挙権獲得同盟秋田支部」を作ります。そして、和崎ハルはのちに、秋田県でさいしょの女性議員となったのです。

かいは、49歳のとき、秋田市に「秋田婦人ホーム」を作りました。これは、いろいろな事情がある女性を助けるためのものでした。65歳のときにはこのホームの理事長となり、ホームにつくしました。

秋田の女性の地位が高くなるように、婦人運動に打ちこんだかいは、84歳のとき、秋田市で亡くなりました。秋田県は、かいに「県文化功労章」をおくり、そのはたらきをたたえました。